

(様式1)

## 会 議 の 案 内

<p>(担当課 担当係)</p> <p>高齢障害福祉課 障害者支援係</p>	<p>(お問い合わせ先)</p> <p>0942-85-3642</p>
<p>会 議 名 称</p>	<p>令和5年度 第2回鳥栖市障害福祉計画策定委員会</p>
<p>議 題</p>	<p>第7期鳥栖市障害福祉計画及び第3期鳥栖市障害児福祉計画素案について</p>
<p>会 議 開 催 日 時</p>	<p>令和5年11月30日(木) 15時30分</p>
<p>会 議 場 所</p>	<p>鳥栖市役所 3階大会議室1</p>
<p>傍 聴 定 数</p>	<p>0人</p>
<p>特 記 事 項</p>	<p>(注意事項等)</p>

(様式2)

会 議 傍 聴 受 付 簿

会議名：（鳥栖市役所 3階大会議室1）

日 時：（令和5年11月30日（木）15：30～）

受付番号	氏 名	住 所
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

会議の要旨（議事録）

会議の名称	令和5年度 第2回鳥栖市障害福祉計画策定委員会		
開催日時	令和5年11月30日 (木) 15時30分～	開催場所	鳥栖市役所 3階大会議室 1
出席者数	策定委員 14人 事務局 5人	傍聴人数	0人
議題	第7期鳥栖市障害福祉計画及び第3期鳥栖市障害児福祉計画素案について		
配布資料	○第7期鳥栖市障害福祉計画及び第3期鳥栖市障害児福祉計画素案について		
所管課	(課名) 高齢障害福祉課	(電話番号)	0942-85-3642

## 議 事 録

参加委員：田代会長、牧崎副会長、前山委員、小森委員、藤井委員、大隈委員、高崎委員、橋口委員、江見委員、芹田委員、中原委員、石川委員、田中委員、原口委員[計 14 名]

○委員

保育所等訪問支援の事業所数が資料には1か所となっているが、佐賀県のホームページには4か所となっている。どちらが正しいか。

●事務局

4か所が正しい数字であるため、訂正したい。

○委員

重層的支援体制について今回の計画では謳われていないようだが、どのようにお考えなのか。

●事務局

重層的支援体制整備事業については、鳥栖市において体制整備はされていないが、今後体制の必要性は感じている。

○委員

重層的支援体制は、現在縦割りでの対応では難しいので、横のつながり若しくは地域とのつながりで鳥栖市でも対応されていると思うが。

●事務局

事務局等を立ち上げてからの実施までは行っていないが、関係各課や機関と連携を行い、対応はしている。

○委員

就労選択支援の就労アセスメントはどこの事業者が担うのか。

●事務局

現段階の国からの報告では示されていない。想定では指定は就労移行支援・就労継続支援事業所が担うようになるのではないかと考えている。

○委員

就労定着支援とは、就業・生活支援センターのことか。

○委員

就業・生活支援センターではなく、就労定着支援事業所が実施している。私の事業所でも実施している。

○委員

施設入所支援から地域への移行について、以前は国が10%を削減目標としていたが、現在はどうなっているのか。

●事務局

第1期の国の基本方針は10%だったが、前回の計画から6%、今回は5%となっている。全国的に目標達成が難しく、年々達成率を減らしている模様。

○委員

成年後見制度利用支援事業についての見込数の根拠は。

●事務局

年によって利用件数が大きく異なるが、近年の利用件数の推移を考え、微増での見込数と考えた。

○委員

この事業について、市長申立て、後見人の報酬助成の制度、普及啓発も含まれてくる。見込数についてはもう少し具体的に示した方が分かりやすいと思われる。

○委員

コーディネーターの業務内容に対し、今回示されている人数だけで対応は可能なのか。

●事務局

コーディネーターが直接業務に係るのではなく、地域支援の充実に向けて、普及啓発や関係機関との連携などを行う業務であるため、研修を受けている現人数で対応は可能かと考える。

○委員

重層的支援体制についてのお願いであるが、地域包括ケアシステムを進めていくためには、重層的支援体制は重要であると思う。この事案については行政だけで進めていくことは困難だとは思ってはいるが、ぜひ体制整備については進めていただきたい。

○委員

今回将来にわたって見込数という形で示されているが、見込数が願望のように感じるところがある。願望から見込める数字に持っていけるようになればと思う。例として神奈川県地域移行チャレンジ事業がある。県が体験利用を補助する事業であるが、例として佐賀県にこのような事業を働きかけて利用者増加を見込んだり、成年後見事業についても高齢部門と合同で行うなどしたら事業が更に進むのではないかと思う。

事業があつて数字を見込む方がより現実味があつて良いかと思うので、是非今後検討していただきたい。

○委員

私も賛成の意見で、見込数に願望的な数字が含まれていると思うので、事業を実施して見込んだアプローチ的な数字が含まれるとより良いと思う。

●事務局

現在、佐賀県も同様に障害福祉計画を見直している。例に挙げられたような事業実施に向けては市からも働きかけを行っていききたい。

○委員

来年度国スポ・全障スポが佐賀県で開催されると思うが、それについての移動支援等の予算は確保されているのか。今年度の鹿児島大会で障害者の方が大会に選手として参加する際に、サービス提供の担い手が不足して大変困ったとの話を聞いたので伺ってみた。

●事務局

大会などで突発的に移動支援費等が膨らんだとしても、そこについては対応したい。

○委員

次回の計画策定の際に話をする内容かもしれないが、今後の地域移行を進めていくためにサービス提供事業所の充実が必要だと思う。現在の呼びかけだけではなく、行政としての人材育成の取組など、資源を作るための事業に力を注いでいただきたいと思う。